

船舶事故等調査報告書

平成24年7月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012長第8号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成24年1月29日 05時10分ごろ	
発生場所	長崎県平戸市黒子島北東岸（平戸瀬戸） 平戸市所在の広瀬導流堤灯台から真方位212°730m付近 （概位 北緯33°22.5′ 東経129°33.8′）	
事故等調査の経過	平成24年1月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 貨物船 豊春、299トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 140902、金子海運有限会社</p> <p>乗組員等に関する情報 一等航海士、五級海技士（航海）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 船底外板に亀裂及び凹損、ビルジキール及びプロペラに曲損</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び一等航海士ほか3人が乗り組み、飼料約380tを積載し、一等航海士が単独で船橋当直に就き、船首約2.5m、船尾約3.5mの喫水で平戸市東方沖の平戸瀬戸の黒子島北東方沖を南進中、前方に浚渫工事区域を示す標識灯や浚渫船の灯火を認めたが、浚渫工事区域の西側を航行できるものと思い、目視によって航行していたところ、平成24年1月29日05時10分ごろ黒子島北東岸の浅所に乗り揚げた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 低潮時、潮流 約1ノットの南西流</p>	
その他の事項	<p>一等航海士は、平戸瀬戸の航行経験が豊富であり、慣れている海域であったので、作動中のレーダーやGPSプロッターを活用せずに目視により航行していたが、浚渫工事区域を示す標識灯や浚渫船の灯火が明るく、黒子島を視認することができなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、平戸瀬戸の黒子島北東方沖を南進中、一等航海士が、浚渫工事区域の西側を航行できるものと思い込み、目視により操船していたことから、黒子島北東岸の浅所に向かって航行し、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、平戸瀬戸の黒子島北東方沖を南進中、一等航海士が目視により操船していたため、黒子島北東岸の浅所に向かって航行し、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>	

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・慣れている海域であっても、目視のみに頼らず、レーダーやGPSプロッターを活用して船位を確認すること。・航行予定海域については、事前に水路調査を行い、工事等が行われているかどうかを確認すること。 |
|--|--|